



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第2号〉

風の色



歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」
元禄六年（一六九三）隅田川の両国橋下流に架けられた新大橋。ほかし揺て表現される真っ黒な空から突然降り出した激しい夕立に、橋を行く人々は自然と急ぎ足になっています。橋と対岸の斜めの構図が不思議な感覚を与え、見る物を魅了する作品です。題のあたけとは、御船蔵の中に祀られているかつての將軍の御座船安宅丸に由来するこの辺りの通称のことです。

ごあいさつ

友の会会長 池田 堅 昭

馬頭町広重美術館友の会本年度総会で、桑野弘会長のあとを継いで会長に選出された池田です。よろしく願い申しあげます。

本年度の事業計画は、見学会、講習会、研修旅行、会報の発行などを予定しております。

八月八日には初の研修旅行を、上野松坂屋で開催中の「東海道五十三次旅こころ浮世絵展」と江戸東京浮世絵散歩第一回「上野」を、現地集合で計画いたしましたところ、横浜、東京、小山、宇都宮、西那須野、馬頭の各地より二十八名のご参加をいただき、浮世絵の世界を漫遊してまいりました。次回も予定しておりますのでご期待下さい。

また、友の会には広重美術館を育てていこうと「美術館ボランティア」グループ（現在約七十名が活動中）があり、毎日八、九名がご奉仕していただいております。

友の会の会員の皆さんの中で、美術に関心のある方、生活時間にゆとりのある方のご参加を希望致しております。

広重美術館は、稲垣館長、学芸員、職員ともども、年十回の、特別展と企画展を計画し、楽しくユニークな企画を展開して、皆様のご期待に添うべく努力いたしておりますので、皆さまにおかれましては、一人でも多く、一社でも多く入会されることを念願して、ごあいさついたします。

馬頭町広重美術館

「友の会」に参加して

「友の会」会員 山口 千寿代(真岡市)

私が広重描く「東海道五十三次」の絵を見たのは小学六年生でした。十六歳上の兄が京都旅行で買ったおみやげの三枚の絵皿。確か「日本橋」「白雨」「京師」でした。成人して、私も結婚し、三人の息子の子育てに忙しみました。その頃「お茶漬」での懸賞が当り、再び「五十三次」の絵に触れたのです。五十三次全揃いを見るのは初めて。のめり込み始めた私でした。やがて子育ても終り、この馬頭町に広重美術館が出来るという事を読売新聞が特集記事に載せたのです。ますます



友の会見学会 上野東照宮にて

私は「東海道五十三次」に熱中。やがてこの美術館が完成し、同館を訪れました。数回訪れていたら、案内嬢が、会員になることを勧めて下さり、私は喜んで「会員」になりました。見学会に参加させて頂き、とても幸福を感じました。

上野「松坂屋」で開催の「広重・北斎旅ごころ浮世絵展」です。絵はもちろん、昔の写真と今現代の写真が一緒に並んでいました。稲垣館長が広重の五十三次の絵には熱心に解説して下さい、絵の前は黒山の人がかりです。誰一人、さつさと歩く人はなかったようです。

この「上野松坂屋」が広重作「名所江戸百景 下谷広小路」の図に描かれてあり、感激です。とても風情がありました。

昼は江戸時代から続く老舗「伊豆菜」でうなぎの蒲焼をいただき、午後は「江戸東京浮世絵散歩」の開始です。まず最初は「下町風俗資料館」。中にはなつかしい昔の遊び道具があり参加者の中には、一生懸命挑戦している方もありました。丁度「不忍池」は蓮の花が盛んで、池いっぱいに咲き誇っていました。散歩の中で一番驚いたのは上野東照宮の「お化け灯籠」。高さ六m、笠石周囲三・六mの巨大さには、とてもびっくりしました。これから先も見学会がありましたら、ぜひ必ず参加させて頂きたいと思っています。今年には東海道の駅宿が出来て四百年。旅行好きの私も、現代風にこの五十三次を旅したいと思っています。

ボランティア活動に参加して

山口 喜美枝

何もわからぬまま不安と期待の入りまじった気持ちでボランティアに参加しました。今日は何人ぐらいの観客が訪れてくれるだろうか、朝のうちは心配していても、昼近くなると幾つもの団体や、四、五人のグループが来てくれると嬉しさも倍増します。

そして、くい入るように作品を眺め、満足して帰る人や、「また、来ます。」と約束してくれる人、企画が変わる度に何度も訪れてくれる人などに出逢うと、座ってばかりではいられず、つい声をかけたくなってしまう。

知識のない私でも、毎日作品にふれていだけで幸せで、心がとても静まり、飽く事がない作品の素晴らしさを感じます。

これからも、健康に気をつけ、いつまでもこのボランティアに参加して、少しでもお役に立てればと思っています。

友の会 特別行事スケジュール

■ 第2回友の会見学会

「キヨッソーネ東洋美術館所蔵浮世絵展」

〈足利市立美術館〉

明治初めにお雇い外国人として来日し、紙幣印刷の技術を指導したイタリアの銅版画家キヨッソーネが収集した名作150点を展示。

●平成14年2月6日(水)

●集合場所＝足利市立美術館前
(JR両毛線足利駅徒歩7分)

●集合時間＝午前10時30分

午後は足利学校などを見学します。

●会費＝観覧料が未定につき1月に決定します。

■ 講座

「浮世絵版画収集鑑定の知識」(連続2回)

浮世絵を収集するにはどんな知識が必要か、集め方のノウハウを当館館長が伝授します。

●平成14年2月17日(日)・2月

24日(日) 午後1時30分～

●会場＝当館視聴覚研修室

参加希望者は、当館まで電話にてお申し込み下さい。(但し会員の方のみに限ります)



竹林の手入れに励む友の会ボランティアのみなさん

馬頭町広重美術館 開館一周年記念特別展

「広重の画業展」

「名所江戸百景を中心に」

友の会の皆様はもちろん、たくさんの人々に支えられて当館はまもなく開館一周年を迎えます。その記念すべき機に「広重の画業展―名所江戸百景を中心に―」を開催いたします。そこで本展覧会の意義とその魅力について皆様にご理解いただくため、この欄をお借りして少しご説明したいと思います。

まず「名所江戸百景」とは

「名所江戸百景」は歌川広重（1797-1858）の晩年、安政3年（1856）から没後である安政6年（1859）にかけ出版された全120枚揃の大作です。主題は当時の江戸の名所。ただし没後に完結したので安政6年（1859）に出版された「赤坂桐畑雨中夕けい」には「二世広重畫」との落款が記されています。二代歌川広重の作品です。

また「一立斎広重一世一代江戸百景」と題した目録が附いており作品を四季毎に分類しています。

その特徴と魅力

このシリーズは、全て縦の画面で、様々な季節、時間、天候を背景に江戸近郊の景勝地を描いています。またなかには近景を極度に大きく配置し、その物体越しに遠景を望むという独特の構図も少な

らず使用されています。

縦型という限られた空間の中に要素と想われる場所を近景、中景、遠景に配し、構図を完成させており、その色彩と構図の妙は、ピンセント・ヴァン・ゴッホをしてこのシリーズ中の「大はしあたけの夕立」（本展覧会ポスターに使用。）や「亀戸梅屋舗」（本展覧会チケットに使用。）を模写させたことで知られています。

また、この作品においては、特にぼかしや布目摺りなどの高度かつ繊細な摺りの技術が駆使されていますが、後摺になるとそれらが省略されたり、異なる形になっているものが多くなります。そのため絵師（広重）の本来の意図を知るためにはよりはやい摺りのものを見なければなりません。

今回出品される作品のレベル

その点本展覧会に出品される作品は初摺といわれる一級品のうちのひとつ。海外のコレクターが長らく秘蔵し、今回日本で公開されるのは実に25年ぶりなのです。大変貴重な作品といえるでしょう。

なにせ目録も含め全120図ですので当館の展示室では一度に展示することが出来ません。そのため今回は前期と後期に分けて展示いたします。併せて各図の横にはその江戸名所にあたる東京の写真も展示いたします。当時の名所を思い起こすすがたとなれば幸いです。

いかがでしょうか。広重の画業（特に

その晩年）を語るにあたり欠かすことの出来ない作品、名所絵で知られた広重が晩年に至り到達した世界を是非本展覧会でご覧下さい。

皆様のこ来館をお待ちしております。

（学芸員 津田卓子）

開館一周年記念特別展 広重の画業展

名所江戸百景を中心に

■前期＝平成13年9月13日（木）～10月14日（日）

■後期＝10月18日（木）～11月18日（日）

開館時間／午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日／月曜日・祝日の翌日 及び展示替期間（10月15日～17日）
特別展観覧料／大人800円（720円）・高大学生500円（450円）
小中学生150円（135円）（ ）内は20名以上の団体料金

講演 10月13日（土）「肉筆画に見る江戸名所」当館学芸員 市川信也

記念講演 11月3日（土）「名所江戸百景の位相」
国立歴史民俗博物館助教授 大久保純一氏

ミュージアムトーク（展示解説）
10月6日・10月20日・11月10日 当館学芸員

浮世絵入門講座 10月27日・11月17日 当館学芸員

●いずれも土曜日、午後1時30分より。先着順、聴講無料。
但し、ミュージアムトークは観覧料が必要。



歌川広重「名所江戸百景 深川洲崎十萬坪」

今後予定された展覧会

企画展「浮世絵に見る忠臣蔵展」

元禄14年（1701）3月14日に江戸

城内で浅野長矩（内匠頭）が吉良義央（上

野介）に斬りかかり傷を負わせたため浅

野長矩（内匠頭）は即日切腹、赤穂藩は

お家断絶となりました。この時の幕府の

裁きを不満とした元赤穂藩士が翌年12月

14日の夜半、本所の吉良邸に討ち入りし

吉良義央（上野介）の首級を挙げ、浅野

長矩の菩提寺である泉岳寺に報告し旧主

の恨みを果たしました。この時の復讐事

件が歌舞伎や浄瑠璃などに脚色されて上

演したところ好評を得ました。のちに浮

世絵にも描かれ多くの絵師の作品があり



歌川広重「忠臣蔵 十一段目 一夜打押寄」

ます。この展覧会では歌舞伎で上演され
た『仮名手本忠臣蔵』を錦絵に描いた作
品をご紹介します。

●ミュージアムトーク 当館学芸員

日時／平成13年11月24日午後1時30分

●講演会／「忠臣蔵と浮世絵」

館長 稲垣進一

日時／平成13年12月1日午後1時30分

3時

●浮世絵入門講座 当館学芸員

日時／平成13年12月8日午後1時30分

3時

【青木コレクション名品展】

青木藤作氏が収集し、当館が寄贈を受

けた作品は歌川広重の肉筆画をはじめ日

本画家の久保田米僊、洋画家の川村清雄

の作品や思想家の徳富蘇峰の資料、陶器、

漆器、刀剣など実に4200点に及びま

す。ほとんどの作品は整理されることな

く保存されていたため、当館では整理の

終わりました作品から順次公開いたしま

す。

この展覧会では青木コレクションの中

でもいままでは展覧会に出品されたこと

のない作品を中心に展示いたします。

●ミュージアムトーク 当館学芸員

日時／平成14年1月5日午後1時30分

●講演会「近代の視点の変容」

栃木県立美術館特別研究員 竹山博彦氏

日時／平成14年1月12日午後1時30分

3時

●浮世絵入門講座 当館学芸員

日時／平成14年1月19日午後1時30分

3時

【浮世絵に見る物語展】

物語絵は平安時代から発達した絵画で、

文章の一部分を挿絵として描いた作品で

す。浮世絵にも古くから登場し多くの絵

師により描かれてきましたが、幕末には

「平家物語」「源氏物語」「義経記」「小

倉百人一首」「二十四孝」「太平記」「曾

我兄弟」などが見立絵として描かれてい

ます。

この展覧会では平安時代の宮中で発達

した文学が、江戸の庶民にどのように読

まれ、親しまれたか浮世絵を通してご紹

介いたします。

●ミュージアムトーク 当館学芸員

日時／平成14年2月9日午後1時30分

●講演会「浮世絵は物語る」

館長 稲垣進一

日時／平成14年2月16日午後1時30分

3時

●浮世絵入門講座 当館学芸員

日時／平成14年2月23日午後1時30分

3時

【浮世絵東海道の世界展】

広重は天保4年（1833）に開板し

た「東海道五拾三次之内」の好評により

以降、風景絵師としての道を歩み始めま

した。特に東海道を描いたシリーズは生

涯に20余種出版し広重の代表作になっ

ています。主な作品だけでも「保永堂版東

物東海道」「美人東海道」などを挙げる

ことができます。広重の街道絵は四季、

天候、日時を巧みに取り入れた作品で構

成され多くの人々に親しまれてきました。

この展覧会では広重の晩年に描いた「豎

絵東海道」全55枚と併せて大正時代の写

真を展示いたします。

●ミュージアムトーク 平成14年3月16

日午後1時30分

●講演会「広重東海道五十三次の謎」

館長 稲垣進一

日時／平成14年3月23日午後1時30分

3時

●浮世絵入門講座 当館学芸員

日時／平成14年3月30日午後1時30分

3時

友の会会員募集中

美術鑑賞や美術館、浮世絵や歴史に興味をお
持ちの方、もっといろいろなことを知りたい方、
馬頭町広重美術館友の会へ入会しませんか。
特別展・企画展が無料で何回でも観覧できるな
どの特典がございます。

会費

●一般会員（一般）	年額	3,000円
（学生）	年額	1,500円
●特別会員（個人）	年額	10,000円
●特別会員（法人）	年額	一口 30,000円

馬頭町広重美術館友の会 ニュース 第2号

平成13年10月10日発行 ●編集発行／馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭1-16-9
TEL 0287-0611-06 FAX 0287-0627-177
http://www.hiroshige-bato.tochigi.jp/